

読書感想文
コンクール
中学校の部
最優秀賞

「上昇思考」を読んで

佐藤 聖悟 さん
(志津川中学校 1年)



読書感想文
コンクール
小学校高学年の部
最優秀賞

勇気を大切に

阿部 巴瑞樹 さん
(戸倉小学校 6年)



私は、中学校に入り、念願のサッカー部に入学した。私には憧れの選手がいる。それは日本代表の長友佑都選手である。彼の持久力あるプレーに憧れ、私も日々の練習に励んでいる。

ある日、父が、長友選手の「上昇思考」という本を買ってきた。私は正直、読書が苦手でもどちらかという外で体を動かす方が好きである。しかし、この本はサッカーに係るものであること、そして何より、私の憧れの長友選手が書いた本であることから、ぜひ読んでみたいと思い自然と手が伸びた。

ページをめくるとこの言葉が目に見え込んできた。「世界一のサイドバックになる。」

セリエAへの移籍が決まった時、長友選手が掲げた目標である。軽い気持ちで口にするような目標ではない。この目標を目にした時は日頃どんな練習をしているのか、ますます興味をわいた。彼と同じ練習メニューをこなしたからと言って同じようなプレーができるわけではないと分かっていたが、少しでも彼の秘

密を知りたかったのである。長友選手は、サッカーの練習はもろもろのこと、日々の走り込みや筋力トレーニングなどといった練習も積み重ねている。それでも結果が出せない時や辛い時期にも気持ち悪く、心に余裕をもち続けようとしていた。ぶれない心を持つことが最も大切であると彼は語っている。

彼の言葉には重みがある。特別な練習が必要なのではなく、心の広さ、人間としての大きさが差になる。私は彼の言葉から大切なことを学んだ。そして彼の存在が「憧れ」から「尊敬」へと自然と変化していった。

私は持久力を向上させるために、毎日、走ることを自分の中のルールとしていた。しかし、疲れていたり、雨が降ったりすると簡単に休んでしまっていた。サッカーが上手になりたいという思いは強いのだが、練習量がそれに伴っていないことに気付かされた。今後は長友選手のような持久力のあるサッカーができるプレイヤーになれるよう、練習に励んでいく。

サッカーでは、自分の技術を磨くことも大切だが、チーム全体の信頼関係を作ることが最も大切だということを知った。そのために私ができることは自分自身がポジティブでいることだ。自分が周りの人を大切にしていればそれと同じように、他人を大切に思うことができる人たちが集まってくる。自分から思えば、私には自分自身が思うようなプレーができなかったり、結果につながらなかつたりすると独りよがりのプレーになってチームに迷惑をかけてしまうことがある。

「類は友を呼ぶ」という言葉があるように、私自身がチームメイトにいてほしい人を演じることで、理想のチームを目指したい。

そして、長友選手はこうも言っている。「周りに対する感謝の心を持っていてこそ初めて人生を導いてくれるような重要な人たちに逢うことができる。感謝の心をもたずに自分の不運を嘆いているようでは、いい出逢いも巡ってこなくなり、チャンスもつかめなくなる。」

出逢いというのはいつどんな巡りあわせとなるのか分からない。しかし、どんな状況であつても感謝の気持ちを持つて向き合えば自分だけではなく相手にとつてもプラスとなるはずである。私はこの言葉を常に思い出し、心がけていきたい。

私がこの本を読んで一番大事だと思った言葉は「サッカーができることに感謝」である。感謝することが全てにつながる。長友選手は語っている。私も今、この環境で、この仲間たちとサッカーができることに感謝している。周囲の期待に応えられるよう、尊敬する長友選手のプレーに少しでも近づけることができるよう、日々の練習を頑張っていく。

さらに、これはサッカーだけではなく日常生活においても通じるものがある。今勉強できること、今仲間と過ごせることに感謝して生活していきたい。

書名：上昇思考 幸せを感じるために大切なこと
著者名：長友佑都
出版社：角川書店

「おばあさまに会いたいのではないか？その気持ちを、しっかりと、強く、心の中で思っただらなさい。そうして、一歩。前にふみだしてみるのです。」

これは、ロンリーがるりにかけた言葉で、私の大好きな言葉です。

この物語は、はずかしがり屋で、毎日一人ぼっちだったという女の子が、風に乗ってやってきた不思議なおじいさん、ロンリーと出会うことから始まります。るりはロンリーの言葉で勇気づけられ、大きなシャボン玉に乗りこんでおばあちゃんに会いに行くことができました。そして、オルガン族の人達や無人島のおじいさんなどに会う旅をすることができたのです。

私にとつて一番に残ったのは、ロンリーとの旅を通して、るりが大きく変わり、成長したこと。今までのるりは、人とうまく話そうと思ふときんちようしてしまつて、逆に、思ったことを上手に伝えられなくなつてしまつていました。けれど、るりは勇気を

出して飛び込んだこの旅のおかげで、それをこくふくすることができました。旅の中でのるりは、オルガン族の王様から「クチノ実」をもらいました。クチノ実は、なかよしが贈る実で、言いたいことがるりにびつたりの実です。でも、るりはそれを無人島のおじいさんにあげてしまったのです。せつかくもらつた実なのに、なぜだろうと初めは思っていました。でも、何度も読み返しているうちに分かつてきました。るりは、クチノ実のおかげで自分が変われたと思つていたけど、もしかしたら、勇気をだしてシャボン玉に乗りたり旅をしたりしているうちに、もう変わつていたのかもかもしれません。るりの心が成長したからこそ得ることができた実なのではないでしょうか。

だから、るりはおじいさんにクチノ実をあげたのだとおもいます。自分のように変わつてほしい、元気になるってほしいという思いを込めて。旅に出る前のるりだったら、きっとそんなことは思いもしなかつ

たでしょう。旅をすることで、勇気だけでなく、人への思いやりやの心も手に入れられたのだなと思います。るりの背中をおしてくれたのが、「一歩、前にふみだしてみるのです。」

というロンリーの言葉。だつたのではないのでしょうか。

私にも同じような経験がありません。私もるりと同じようにはずかしがり屋でした。やりたいことや思つたことも、言い出す勇気がなくて、まあいいやとあきらめてしまつていました。でも、五年生の夏、私は友達にさそわれて、あるキャンプに参加しました。初めはなかなかみんなと話せなかつたのですが勇気を出して話かけてみると、たくさん友達ができ、心から楽しいと思える瞬間でした。それから、自分の意志で、いろいろなキャンプや、富士登山などにも挑戦し、全国にたくさん友達ができました。学校生活でも、なるべく自分の考えを人に伝え、分かり合えるようにしようとするようになりました。そうすると、だんだ

ん、人づきあいがうまくなり、積極的になつたり、することができるようになったのです。るりも私も、勇気を出せたから成長できたのかもかもしれません。

るりとロンリーの旅から、私は、ある一つの勇気が色々な人との出会いを生み、心の成長のもとになるということが改めて感じるようになった。自分の弱い心と戦つて手に入れた強い勇気なのだと思います。私はこれからも自分がやりたいと思つたことは、勇気を出して挑戦していこうと思ひます。そして、たくさんの人と出会い、学び、成長していきたいと思ひます。

書名：風のロンリー
著者名：河相美恵子
出版社：国土社